



塩竈(浦戸)のむかし話①「古げたのおばけ」

むかしむかし、寒風沢の人たちが、元屋敷にすんでいたころのお話です。

ある年のこと、夜中になると家のたちならんでいる道を「鼻いでえ、鼻いでえ。」と言いながら、なんともふしぎな声で、うなって歩くものがありました。

次の夜も、その次の夜も、きみの悪いうなり声が続くので、村の人たちは「おっかねえな。なんだべ。」と大さわぎになりました。

そこで、元気のいい若者5、6人がそうだんしてその化けものの正体を、見とどけることになりました。

夜中になるのをまっ待っていると、案の定、真っ暗な道を、「鼻いでえ、鼻いでえ。」という、うなり声がこちらに近づいてきました。「ほれ出た。にがすな。」いっせいに外へ飛び出してみたところ、声はするが姿はさっぱり見えません。「どこだ、どこだ？」と、きよろきよろしていると、「鼻いでえ、鼻いでえ。」と、またうなり出しました。

今度は竹のぼうをもつて、その声のするあたりをめちゃくちゃに引っかきまわしました。「あっ いだいだ!」「こっちさもいだ!」「これっ!」



大さわぎしながら、竹の先にさわったものを、よくよく見たら、板きれたの、古なわの切れっぱしばかりで、化けものらしいものは、どこにもいません。うなり声もしなくなっていました。がっかりして、おたがいに顔を見合わせてあきれていると、また向こうの方で「鼻いでえ、鼻いでえ。」と声がしました。「今度こそつかまえろっ！」と、みんなで走って行ってみました。やっぱりなんにもいません。さんざんばかにされた若者たちは、すっかりはらを立てて、家に帰ってねてしまいました。



それからなん日かたって、そのときの若者のひとりが、夜のやぶのそばを通りかかると、中からわやわやと、人の声がしました。

「こんなどこで、何してんだべ？」と思って、そっと近づいて聞いてみると、どうもふつうの人間の声とちがうようです。なんともふしぎな声で、歌を歌ったり、おどりをおどったりしているようです。若者は少しばかりおそろしかったが、そろそろと声の方に行って、じっと息をころして聞いていると、こんな歌の文句が聞こえてきました。



「古みの^{※1}、古がさ、古だいこ、つづいて古げた、古わっぱ^{※2}、どんどんばさばさ、ばっさばさ」

たいそう調子よく歌いながら、楽しそうにおどっていましたが、とつぜんその中



※1 かやなどをあんで作った^{あまく}雨具 ※2 木でつくったべんとうばこ

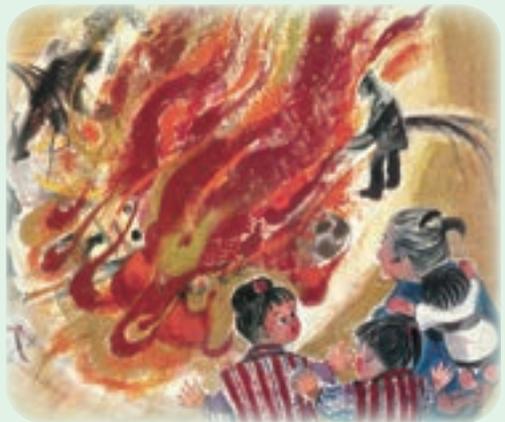
のひとりが、「なんだか今夜は、気がのんねえ。どうもおかしなけはいがすっから、もうやめろ。」とさけぶと、おどりも歌も、ぴたっとやんで、しんとしずまりかえってしまいました。

立ち聞きしていた若者は、^{わかもの}にわかにおそろしくなって家に^に逃げ帰ると、ふとんをかぶってねてしまいました。

さて、次の日になると、若者はどうにもがまんできなくなり、友だちのところにとんで行って、きのうの夜の話をみんなに話して聞かせました。

そして夜になると、なかまたちといっしょに、きのうの場所に行ってみました。するとやぶの中にはたくさんの古みのだの、古だいこ、古げたや古わっぱなどが、^{なみ}波で打ち上げられていました。そこから少しはなれた所には、かたほうの^{はな}鼻のかけた大きな古げたが、ころがっていました。「さては、古げたや古みの、古だいこどもが化けて出てきたんだなあ。使つてで、いらねぐなったもんでも、そまづにするもんでねえなあ。」といいながら、みんなでそれらを一か所に集めて、すっかり^や焼いてしまいました。

そのばんからは、「鼻いでえ、鼻いでえ。」のうなり声も、やぶの中の歌やおどりも聞こえなくなったということです。

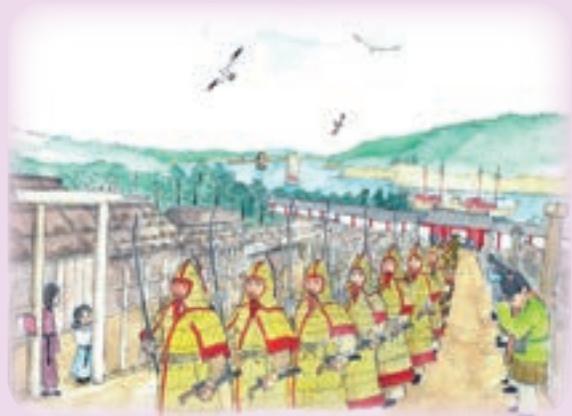


文：『しおがまの昔話』（昭和48年塩竈市教育委員会）より

絵：『古げたのおばけ』（昭和49年塩竈市教育委員会）より・高倉勝子 画

塩竈のむかし話②「^{は は こ い し}母子石」

塩竈市の西の方に「母子石」という石があります。



今から1300年前ごろに「^{やまとちやうてい}大和朝廷」
が^{とうほくちほういほく}東北地方以北の^{あんてい}安定のために「^{たがじやう}多賀城」
という役所の城をつくりました。

当時、塩竈は「^{こうつ}国府津」という「多賀城」
のみなとまちになっていました。

これはそのころのお話です。

むかし多賀城を^{きず}築いたころのことです。
城づくりのお役人が自分の^{つま}妻にするよ
^{むすめ}い娘はいないかとあちこちさがしていま
した。



^{いしどう}石堂に^{りっぱ}立派な^{ちやうじゃ}長者が住んでおり、その娘がよいだらうと人を^{たの}頼んでいろいろと申し入れをしましたが、^{おや}親子ともどうしても^{しょうち}承知しませんでした。

そのうちに城もどんどん工事がはかど
り、もはや完成かんせいという時になって、だれ
が言うともなく、「こんな立派りっぱなお城だか
ら人柱ひとばしら※を立てて永久えいきゅうの守りにしなければ
ならない」ということになり、人えらび
がはじまりました。



「このあたりで立派な人ということにな
れば、石堂いしどうに住むあの人しかいない。」
というみんなの意見で、とうとう娘むすめの
父が人柱にたつことに決まりました。

娘はこんなことになったのも、自分がお役人のところにお嫁よめに行くの
を断ことわったためだろうと思い、
「わたしはどんな大変たいへんなことでもがまんしますから、どうかお役人に
お嫁にやってください。」と涙なみだながらに願いましたが、父は
「お前がお役人のところに行けば、私は助かるかもしれないが、だれか
が人柱に立たねばならない。私の代わりに迷惑めいわくする人が出るのだから、
とてもそんなことはできない。」
と、ついに人柱に立つことにな
りました。



母と娘の嘆なげきようは、なん
とも言葉ことばでいいあらわせない
ほどでした。

※ むかし、お城を築く工事などの完成を祈って人を埋めること。

父が人柱に立つ時刻になると、母と娘はお城の方を向いて両手を合わせ一心に祈って泣き悲しんでいました。

あわれなことに母と娘の二人はいつの間にか冷たくなって死んでいました。



母子の立っていた石には、二人の足跡が残されているということです。

文：『しおがまの昔話』
(昭和 48 年塩竈市教育委員会) より



「母子石」のお話は、塩竈と「多賀城」のつながりが分かることから大切に受け継がれています。

「母子石」については、このほかにもいろいろなお話が伝わっています。

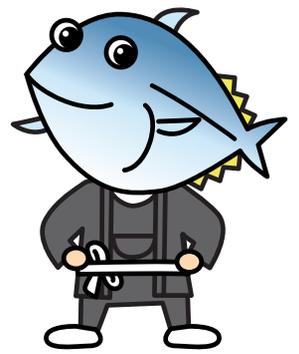


現在の母子石 (白菊町)

塩竈の昔話は、ほかにもたくさんあるよ。市民図書館などで調べてみよう。インターネットでは「文化の港シオーモ」でもしょうかいされているよ。

<http://shiomomo.jp/> にアクセス、または検索サイトでシオーモと入力して検索をクリック！

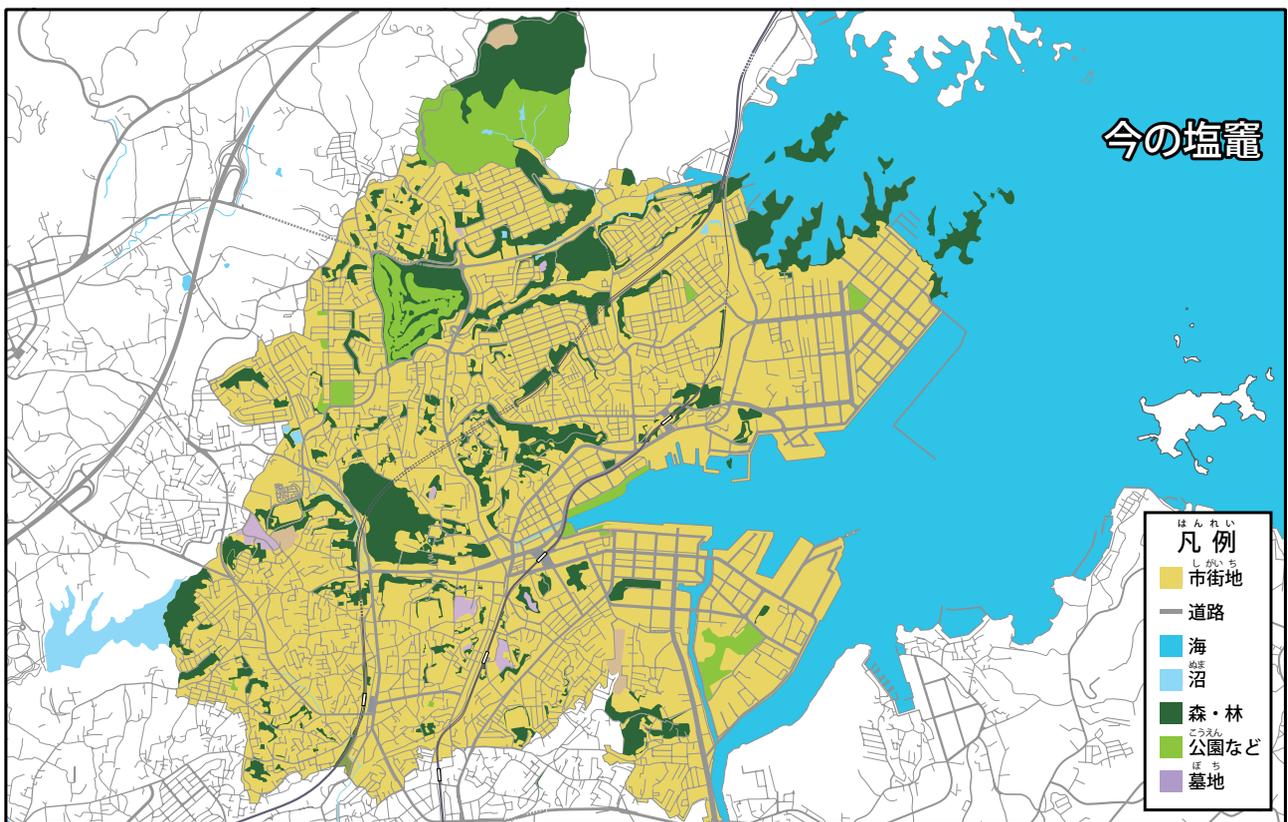
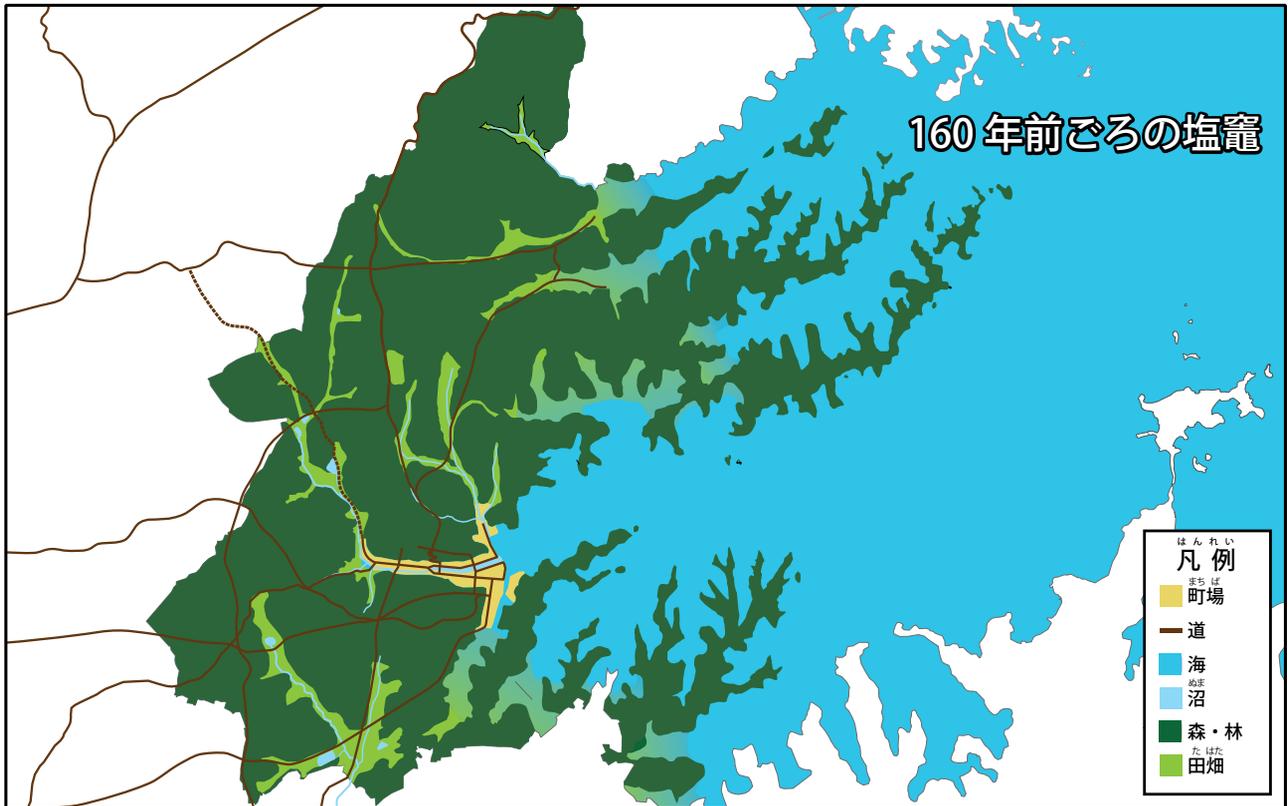
塩竈^{ちいき}地域でつかわれてきた^{おも}主な^{ほうげん}方言



【方 言】	【意 味】	【使い方】
アンベイ	ぐあい, ^{ちょうし} 調子	今日はアンベイわるい
アベ	行こう	買い物さ,アベ
イガス	いいですよ	イガス。やってみっぺし
イズイ	じっくりこない	なんかイズイごだ
イッテガイン	行ってきなさい	気づけでイッテガイン
ウッショ	うしろ	ウッショ,見でみる
ウルガス	水につける,ふやかす	豆,ウルガしておげ
オガル	大きくなる, ^{せいちょう} 成長する	ずいぶんオガッタごだ
オショスイ	はずかしい	おら,オショスイごだ
オダヅ	ふざける	この,オダヅやるっこ!
カツケル	なすりつける	人さかつけてだめだべや
カマス	かきまぜる	んめがら,カマスでのまいん
ケロ・ケサイン	～してください	そいず,とってケロ・ケサイン
ゴシャグ	おこる	おめ,そんなにゴシャグな
チョス	いじる,さわる	そんなごチョスな
ナゲル	すてる	ちゃんごみばごさナゲデ
ナジョ (二)	どのように	ナジョ (二) したもんだべ
ネッパス	くっつける	テープでネッパスといいんだ
マヤウ	べんしょうする	マヤエばいいってもんでねえ
モジャグル	くしゃくしゃにする	モジャグってなげでけさいん
ムツケル	ひがむ,いじける	そっただごどでムツケンな
ヨゴミ	なまごみ	ヨゴミも,なげでけさいん

地図や写真で見る 塩竈の移りかわり

(1) 広さの移りかわり



塩竈のまちは、むかしから海や沼を埋め立てはってんしてきました。

(2) 暮らしのうつりかわり

塩釜線が通ったころ (130年前ごろ)



塩釜港駅前のにぎわい (1948年に描かれた絵)



塩釜港駅 (いまの本塩釜駅神社参道口)

仙石線が通ったころ (100年前ごろ)



本塩釜駅ふきん (1927年/昭和2年ごろ)

塩竈にはじめて電
とうがともったの
もこのころなん
だって。



1887年(明治20年)塩竈
と岩切(仙台市)をむすぶ塩釜線
がつくられ、塩竈駅(塩釜港駅)
ができました。

この駅からは船からおろされ
た石炭、セメント、ひりょう、
魚などを運び出したり、人びとの
乗り降りでにぎわいました。

このころの汽車は「マッチ箱」
とよばれ、一日七おうふくして
いました。

黒いけむりをはき、じょう気
をふき出して走るすがたに、大
人も子どもも、かん声を上げて
いたそうです。

1923年(大正14年)には、
仙台と西塩釜をむすぶ宮城電鉄
(今の仙石線)がつくられました。

1926年(昭和元年)に本塩釜
まで、翌年、東塩釜～松島海岸間
が開通しました。

また、1931年(昭和6年)には、^{しょうわ}仙台と^{せんたい}塩竈をむすぶ^{せんえんどうろ}仙塩道路(今の国道45号)もアスファルトやコンクリートでかためる^{こうじ}工事が^{かんせい}完成して、^{こうつう}交通は^{べんり}とても便利になりました。

^{せんそう}戦争があったころ (80年前ころ)



^{ほんばん}本番さながらの^{かさいくんれん}火災訓練



^{ぼうくう}となり組みの防空えんしゅう
1945年(昭和20年)ごろ

^{ひがい}塩竈市の空しゅうによる被害 (昭和19年)

- なくなった人 1名
- けがをした人 12名
- 燃えた家 483戸

「^{きろく}塩竈市空しゅう記録」より

1944年(昭和19年)12月と1945年(昭和20年)8月の2度も、塩竈市にアメリカ軍^{ぐん}の飛行機^{ひこうき}からばくだん^おが落とされました。(これを「^{くう}空しゅう」と言います。)とくに、1944年(昭和19年)の空しゅうでは、^{もとまち}本町や^{おじまちよう}尾島町などにばくだんが落ちました。

町は2時間以上も、^も燃えつづけました。朝早くの空しゅうだったため、多くの人びとは、^き着の^み身着のままでひなんするのがやっとなで、家にあるものを何ももち出せなかったそうです。

戦争があったころは、米、みそ、さとう、シャツ、タオル、マッチ、^{もくたん}木炭など、いろいろなものが「^{はい}配給制」といって、国から決まった数だけをわりあてられ、くばられていました。

新しい塩釜駅ができたころ (60年前ごろ)

1944年(昭和19年)に利府^{りふ}を^{りふ}通っていた東北本線(山線^{やません})にかわり、塩竈を通る東北本線(海線^{うみせん})が^{りふ}つくられました。

そして、1956年(昭和31年)、玉川に新しく塩釜駅が^{りふ}できました。



塩釜駅ができたころ
1956年(昭和31年)ごろ



いまの塩釜駅

新しく仙石線が つくりかえられたころ (40年前ごろ)

1981年(昭和56年)には、電車の本数をふやし、踏切^{ふみきり}をなくすために、西塩釜駅から東塩釜駅までの間が新しく連続した橋^{れんぞく}でむすばれ、海岸通^{かいがんどおり}に本塩釜駅^{うつ}が移されました。



駅ができると、町
のようすもずいぶん
かわるね!



いちばんかん
今の壱番館の所にあった前の本塩釜駅



じんじゃさんどうぐち
いまの本塩釜駅(神社参道口)

(3) 東日本をおそった大津波 (東日本大震災)

2011年(平成23年)3月11日、14時46分、宮城県牡鹿半島沖を震源とした地震が発生しました。日本で観測した地震の中で最も大きく、マグニチュード9.0、最大震度は7で、岩手県沖から茨城県沖までの南北約500キロメートル、東西約200キロメートルの範囲におよびました。この地震で最大約40メートルの高さになる大津波が発生し、東北地方の太平洋がわに大きな被害をもたらしました。

この震災による死者・行方不明者は約19,000人、建物の被害は38万棟以上といわれています。

また大規模な停電やダムが決壊、道路、鉄道、航空などにも影響がおよび、人びとが日常生活に必要な食料は手に入らず、水、電気やガスなどの大切なライフラインが止まってしまいました。



つなみが来た直後の本塩釜駅ふきん



復興後

① 宮城県の被害

塩竈市のある宮城県では、沿岸地区を中心に大きな被害を受けました。仙台市、石巻市や気仙沼市をはじめ、名取市、東松島市、山元町、女川町、南三陸町、亘理町、多賀城市、岩沼市、七ヶ浜町なども大きな被害を受けました。それらの中で、特に石巻市では死者・行方不明者が約4,000人となったほか、市の6割が浸水した東松島市、津波と火災にみまわれた気仙沼市、沿岸地区の閑上や新興住宅地に大きな被害を受けた名取市などがあげられます。

②塩竈市の被害



つなみにおそわれた藤倉地区



道路も広く新しくなりました



つなみにおそわれた海岸通地区



まちの再開発が行われました

塩竈市では浦戸地区や沿岸地区を中心
に津波の被害が大きく、床上・床下浸水や
建物の全壊・半壊などといった被害が目
立ちました。その他、道路の亀裂や文化
財の破損なども発生しました。

市内では、すべての小中学校がひなん
所となりました。

津波や地震で家が流されたり、壊され
たりした人びとや、電気・水道などが止
まって生活が難しくなった人びとがひな
ん所を利用しました。

ひなん所では、小中学生がお年寄りを
励まし、そうじなどのボランティア活動
を始めるなど、多くの人びとに元気をあ
たえ続けました。

塩竈市では、津波や地震で壊れた堤防、
道路や建物を新しくする工事や修理を続
けています。

また、これまで全国からたくさんのボ
ランティアの皆さんが作業の他、音楽や
催しものなどで励ましてくれました。

一方で「アマモ再生」など新しい市民
の活動も生まれました。この震災で学ん
だことを生かし、伝えながら復旧復興に
向けて、さらに歩みを進めています。

※ アマモは、沿岸の海中に生える海藻。津波などで流されてしまったため、ふやす活動をしています。

塩竈市の移りかわり (歴史年表)

西暦	年号	塩竈市のおもなできごと	日本や宮城県のおもなできごと
1872	明治 5		小学校ができた 新橋・横浜間に鉄道が開通した
1873	6	塩竈小学校ができた 浦戸小学校ができた 塩竈郵便局ができた	
1874	7	志波彦神社が岩切（仙台市）から移された	
1875	8	塩竈村の人口：3,497 人	
1882	15	最初の築港工事が始まった（18年にできた）	
1883	16	御舟入堀（貞山堀）の改修が始まった	
1886	19	塩釜警察署ができた	
1887	20	塩竈消防組ができた 日本鉄道（塩釜線）上野～塩竈間が開通した	
1888	21	北浜の海面を埋め立てた	
1889	22	塩竈町になった（人口：4,228 人）	仙台が市になった 大日本帝国憲法がつけられた 東北本線が全線開通した
1891	24		日清戦争がおこった
1894	27		三陸海岸で大津波がおこった
1896	29		河北新報が創刊された
1897	30		常磐線が開通した
1899	32	人口：6,313 人	
1898	31		自動車がつたわった
1900	33	東京湾汽船会社塩釜支店ができた	
1904	37		日露戦争がおこった
1907	40		東北帝国大学ができた
1908	41	電話が開通した	
1909	42	人口：7,979 人	
1910	43	塩竈港が大事な港に指定された	明治 43 年の大水害がおこった
1911	44	塩竈商業補習学校ができた	
1912	45	水道ができた、塩竈女子実業補習学校ができた	
1913	大正 2	県内ではじめての私立幼稚園ができた	
1914	3		第一次世界大戦がおこった
1917	6	塩竈町立図書館ができた、人口：11,268 人	
1919	8	はじめて劇場ができた	
1920	9	人口：13,139 人	第一回国勢調査が始まった 宮城県の人口：およそ 962,000 人
1922	11	塩竈で新聞ができた	
1924	13	衛生組合ができた	

西暦	年号	塩竈市のおもなできごと	日本や宮城県のおもなできごと
1925	大正 14	宮城電鉄(仙石線) 仙台～西塩釜間が開通した 人口:16,871人 塩竈第二小学校ができた	宮城県の人口:およそ1,044,000人 東京でラジオ放送が始まった
1927	昭和 2	宮城電鉄東塩釜～松島海岸間が開通した	
1928	3	海の博覧会が開かれた 宮城電鉄仙台～石巻間が全線開通した	仙台でNHKのラジオ放送が始まった
1929	4	塩竈魚市場ができた, 塩竈女子実業補習学校が 塩竈実科高等女学校になった	
1930	5	上ノ原運動場ができた, 人口:23,282人	宮城県の人口:およそ1,143,000人
1931	6	仙台～塩竈間の道路がほそうされた	満州事変がおこった
1933	8	3,000トンがんぺきができた	三陸海岸で大津波がおこった
1935	10	塩竈第三小学校ができた 人口:29,364人	
1936	11	警察署が尾島町に移った	
1940	15	人口:35,890人	宮城県の人口:およそ1,271,000人
1941	16	塩竈が市になった	太平洋戦争が始まった
1943	18	塩竈中学校ができた, 東北海運局ができた 塩竈実科高等女学校が塩竈高等女学校になった	
1944	19	塩竈保健所ができた, 東北本線海線が開通した	
1945	20	塩竈市立病院ができた	広島・長崎に原子爆弾が落とされた 第二次世界大戦が終わった
1946	21	塩竈市公民館ができた(塩竈バプテスト教会内) 築港大通に大火がおこった	日本国憲法ができた
1947	22	中学校ができた(一中・二中・三中・浦戸/6・3制) 人口:42,430人	東北地方でアイオン台風水害がおこった 宮城県の人口:およそ1,567,000人
1948	23	塩竈中学校が塩竈高等学校になった 塩竈高等女学校が塩竈女子高等学校になった	
1949	24	塩竈みなと祭がはじまった 塩釜電報・電話局ができた 東北海区水産研究所ができた	
1950	25	「牛生」(多賀城)が塩竈市に入った	宮城県の人口:およそ1,663,000人
1951	26	浦戸村が塩竈市に入った, 人口:45,820人	
1952	27	新公民館(今の杉村惇美術館)ができた	
1953	28	塩竈市に教育委員会ができた 浦戸小学校石浜分校が浦戸第二小学校になった	
1955	30	浦戸小学校が浦戸第一小学校になった	宮城県の人口:およそ1,727,000人
1956	31	人口:50,960人	仙台にNHKテレビ局ができた
1958	33	東北本線塩釜駅ができた	
1960	35	月見ヶ丘小学校ができた チリ地震津波がおこった, 人口:55,325人	宮城県の人口:およそ1,743,000人

西暦	年号	塩竈市のおもなできごと	日本や宮城県のおもなできごと
1961	昭和 36		おおくら 大倉ダムができた
1962	37	玉川中学校ができた	
1963	38	月見ヶ丘市民プールができた	
1964	39	第三小学校が全焼した	とうきょうたいかい ひら オリンピック東京大会が開かれた
1965	40	魚市場が新浜町に移った 人口: 58,363 人	宮城県の人口: およそ 1,753,000 人
1968	43	港湾合同庁舎が貞山通にできた	
1969	44	水産加工団地ができた	
1970	45	塩釜地区消防事務組合ができた, 人口: 58,772 人 市立男女高等学校が県立となった	宮城県の人口: およそ 1,819,000 人 おおさか ほんこくはくらんかい 大阪で万国博覧会が開かれた
1971	46		せんだいこう 仙台港ができた おきなわ 沖縄が日本にかえされた
1973	48	せいかいちば 青果市場ができた	
1974	49	市の木は「塩竈桜」、市の花は「白菊」と決まった	
1975	50	人口: 59,235 人	宮城県の人口: およそ 1,955,000 人
1977	51	公民館が東玉川町に移った	
1978	52	杉の入小学校・玉川小学校ができた	
1980	53	みやぎけんおきなわ 宮城県沖地震がおこった	
1981	55	人口: 61,040 人	宮城県の人口: およそ 2,082,000 人
1982	56	せんせきせんこう か ふくせん か ほんしおがまえき かいがんどおり 仙石線高架複線化で本塩釜駅が海岸通に移った	
1984	57	うらと しょうかいほつそうこう 浦戸諸島開発総合センターができた	とうほくしんかんせんおおみや もりおか かいつう 東北新幹線大宮～盛岡間が開通した
1985	59	ほけん 保健センターができた	
1986	60	人口: 61,825 人	宮城県の人口: およそ 2,176,000 人
	61	8.5 水害がおこった	
1989		しおがまし たいいくかん 塩竈市体育館ができた	
	平成元		ねんごう か 1月8日, 年号が「平成」に代わった
1990			せいいい してい とし 仙台市が政令指定都市となった
	2	水害が3回おこった ぜんこくこうこうそうたい 全国高校総体バドミントン大会が開かれた	'90 宮城総体が開かれた
1991		人口: 62,025 人	宮城県の人口: およそ 2,248,000 人
	3	しおがまし みるこうりゅう いちばんかん 塩竈市民交流センター (壺番館) ができた しみんと しょうかん ゆう しちようかく (市民図書館、遊ホール、視聴覚センター) い ぼいしこうえん 伊保石公園ができた	
1992		しせい せ ごう き ねんしきてん 市制施行 50 年記念式典が開かれた	
1994	4	しゅうしゅうぶくろ してい まじ 市のごみ収集袋の指定が始まった	こうりつ 公立学校で第2土曜日が休みとなった
1995	6	9.22 水害がおこった	かくしゅうがっこうしゅう せい 隔週学校週5日制となった
	7	人口: 63,566 人	今の「ベガルタ仙台」ができた
1996	8	マリゲート塩釜ができた きんろうしやそうこう しせつ おんすい 勤労者総合スポーツ施設(温水プール)ができた	宮城県の人口: およそ 2,329,000 人

西暦	年号	塩竈市のおもなできごと	日本や宮城県のおもなできごと
1998	平成 10	生涯学習センター「ふれあいエスプ塩竈」ができた	
2000	12	人口: 61,547 人	
2001	13	宮城国体バドミントン大会が開かれた 新浜町リサイクルセンターができた	新世紀・みやぎ国体が開かれた
2002	14		学校完全週 5 日制となった
2004	16	市内循環 100 円バスが運行を始めた 浦戸第一小学校が閉校した	東北楽天ゴールデンイーグルスができた
2005	17	人口: 59,357 人 浦戸第二小学校を浦戸中学校に併設した	宮城県の人口: およそ 2,369,000 人 プロバスケットボール仙台 89ERS ができた
2006	18	鬼房の小径ができた	ご当地ナンバー「仙台」ができた
2008	20	「三陸塩竈ひがしもの」が販売を始めた	岩手・宮城内陸地震がおこった
2010	22	人口: 56,490 人, シオーモの小径ができた 男女高校が統合し宮城県塩釜高等学校になった ホームページ「文化の港シオーモ」ができた	宮城県の人口: およそ 2,340,000 人
2011	23	東日本大震災がおこった 塩竈市震災復興計画が始まった	東日本大震災がおこった 宮城県震災復興計画が始まった
2012	24	塩竈市追悼式が始まった ガマロックフェス 2012 が開かれた	政府追悼式が始まった 天皇陛下が仙台をご訪問された
2013	25	壱番館に庁舎の一部が移転した 藤倉児童館が新しくできた	みやぎ鎮魂の日を定めた
2014	26	塩竈市杉村惇美術館ができた 第一回しおのまち音楽祭が開かれた	羽生結弦選手が県民栄誉賞を受賞した
2015	27	人口: 54,187 人 第一回みなと塩竈ゆめ博が開かれた 災害公営住宅ができた	宮城県の人口: およそ 2,333,000 人 仙石線全線・仙石東北ラインが開通した
2016	28	新魚市場中央棟など一部の使用が始まった	仙台うみの杜水族館ができた 「政宗が育んだ伊達な文化」が日本遺産になった
2017	29	新魚市場ができた 全国高校総体少林寺拳法大会が開かれた 全国高校総文小倉百人一首かるた大会が開かれた	南東北総体 2017 が開かれた みやぎ総文 2017 が開かれた
2018	30	塩竈市津波防災センターができた	
2019	31		5 月 1 日, 年号が「令和」に代わった
	令和元	台風 19 号で水害がおこった	台風 19 号で東日本に水害がおこった
2020	2	新型コロナウイルス感染症が市内でも発生した 小中学校が 3 月～5 月末まで臨時休業となった	新型コロナウイルス感染症が拡大した 東京などに緊急事態宣言がだされた 東京 2020 オリンピックが延期となった
2021	3	全市民(12 歳以上)を対象に高齢者から新型コロナウイルスワクチンの接種が始まる	東京 2020 オリンピックが開かれた